

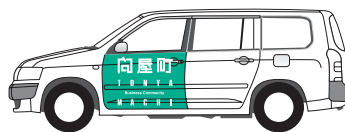


青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成26年1月1日



2014 TONYAMA Business Community MACHII



頌春



祈りいたします。

新しい年が、デフレ脱却に向い生活実感の回復を味わえる年になるよう、また、組合員皆様の更なる発展に繋がるよう心からお祈りいたします。

さて、今年の4月1日には「問屋町内交通事故死亡事故ゼロ6千日」達成がやってきました。16年以上にわたり死亡事故がないことは、日頃より組合員各位において交通安全指導が徹底されていることだと思っております。この達成記念事業は、6月に開催予定の問屋町交通安全協会の総会後に実施したいと考えております。

また、平成23年12月にスタートした「問屋町トランクボックス」は、現在満室状態で空き待ちの状況となっております。

この他、問屋町内の資源リサイクルを更に推進し、障がい者の雇用拡大を支援するため、昨年12月よりパソコンリサイクル回収の実験事業にも取り組んでおります。

昨年、消費税の引き上げの決定や震災復興予算などで、住宅投資の上昇、公共投資の増加など、国内景気は緩やかに回復していると言われておりますが、食料品、電気料、燃料などの値上げから、足元の生活実感と、景気回復の実態とは、かなりの乖離を感じております。一刻も早く具体的な成長戦略に期待したいと思っております。



理事長
元木一純

新年あけましておめでとうございます

組合管理施設の改修工事など承認 第8回理事会

組合管理施設の改修工事や、消費税改正に伴う問屋町トラ

また、事務局からは、卸商

主な案件審議は次のとおり

案件一、事業委員会からの意見について

案件二、組合施設の賃貸並びに新規組合員加入承認について

案件三、問屋町トラックボックスの規程変更について

動物愛護について学ぶ

問屋町支店長・所長連絡会

組合員の支店・営業所の責任者で構成される問屋町支店

親睦会では毎回、多方面からゲスト講師を招き、講演会を開催。今回は、青森県動物愛護センターの桜庭主幹を講師に招き、「動物愛護について」をテーマに講演を行った。

平成18年、市内宮田に開設された同センターでは、総合的な動物愛護管理行政を行う拠点として、動物愛護の普及啓発などの事業を実施。狂犬病予防対策や、犬猫等に関する

苦情対応、捕獲、引取り、譲渡などのほか、動物ふれあい活動や職場体験、サマースクールなども行う。また、犬猫等の迷子を防止する為、ペット識別用マイクロチップの装着も呼びかけている。

組合員等の業務・商品紹介を行う組合員昼食会が、12月18日(水)に開催された。問屋町会館会議室で開催された昼食会には、組合員ら41名が参加した。

組合員昼食会を開催

はじめに、ミリオン株の浪工場長代理より、同社が問屋町に新規開設した県内唯一の健康食品等一貫製造工場(委託元ブランド名でオリジナルサブブランドの設計から製造まで一貫して行う)「ODM総合研究所」や、県内の優良素材を活かして開発した自社商品の紹介が行われた。

つづいて発表したのは12月にレストランフロリア内に「S.O.K.A(ソッカ)」をオープンさせた(株)Sokkaの関CEO。同社4店舗目としてオープンした同店の取扱商品等について解説したほか、また、たいくを使つた珍しい低糖質シヨクラケイも参加者にはまわられた。

はまなす会館内に事務局を構える青森市勤労者互助会からは、青森市内で働く人であれば誰でも加入できる同互助会の福利厚生事業や給付事業などを紹介。月額5000円の会費で、通常料金の半額程度でデイナーバイキングやビアパーティー、日帰りバス旅行が楽しめるほか、映画鑑賞券や各種イベントチケット、市営バスカードなども格安で購入できる。また、結婚や出産、就学などの祝い金、疾病

の苦情対応、捕獲、引取り、譲渡などのほか、動物ふれあい活動や職場体験、サマースクールなども行う。また、犬猫等の迷子を防止する為、ペット識別用マイクロチップの装着も呼びかけている。

桜庭氏は「日本では昭和32年を最後に狂犬病は発生していません。しかし、いつどんなきっかけで発症するかわからないので、ペットの登録とワクチン接種を必ずするようお願いします」と語った。

また、「現在、当センターでは、ドッグラン設備を業務に支障のない範囲で一般にも開放している。会員登録をした上で鑑札・狂犬病予防注射済票・5種以上の混合ワクチン証明書を持参すると、1匹につき1時間200円で利用



講師を務めた桜庭氏

事務局人事異動

▽退職 ※12月27日付 館山 壮一(業務部業務課)

や死亡、住宅災害に対する見舞金の給付制度もある。最後に事務局から、12月からスタートするパソコンリサイクル回収実験事業や、問屋町で働く全従業員に配付する予定の問屋町防災ミニガイドについての説明を行った。



組合員昼食会

新規組合員紹介

△(株)Sokka(ソッカ) 本社 青森県弘前市新岡 字萩流37-12 代表者 関 さえ子 業務内容 小売業 所在地 第二問屋町四丁目1-7 (レストランフロリア内)

△東日本日立物流サービス(株) 本社 茨城県日立市城南町字一丁目5-1 代表者 相川 健一 業務内容 運送業 所在地 問屋町二丁目12-30

業務報告

主要事項

12月 1日▽中小企業組合士検定試験

4日▽第4回問屋町従業員モニター会議

▽青森中金会・緑葉会合同講演会

5日▽第4回事業委員会

10日▽青銀金友会ボウリング大会

▽支店長・所長連絡会第2回親睦交流会

11日▽第2回税務研修会

▽青森市産業振興財団第5回常務会

▽青森商工会議所経営安定セミナー

12日▽国内経済視察会反省会

13日▽みち銀グリーンクラブ

問屋町ビジネススクール

3日▽給与・税金の基礎の基礎計算編(1日目)

5日▽給与・税金の基礎の基礎計算編(2日目)

10日▽自分を活かせる強み発見講座(1日目)

12日▽自分を活かせる強み発見講座(2日目)

総会・忘年会

16日▽金融審査会

18日▽組合員昼食会

▽第8回理事会

19日▽市高度化事業団体連絡協議会幹事会

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

謹賀新年

青森問屋町配送(株)

代表取締役 元木 一純 常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 橋本 昭一 専務取締役 藤本 和夫 常務取締役 森山 慶一

新年のメッセー

（協）青森総合卸センター事務局職員



専務理事
藤本和夫

本年もよろしくお願ひいたします。

昨年、団地の氏神様の大星神社が津軽北斗七星の中の破軍星であることが分かりました。破軍星とは、それを背にして戦えば百戦して百勝との諸葛孔明の言い伝えがあるとか。

今年は内外の難問に破軍星を背に立ち向かいたいと思います。



事務局長
赤坂晃

昨年は、2年連続で体重5kgの減とベルトの穴を1個縮める目標にしましたが、結果は惨敗で現状維持の体重とウエスト、そして白髪としわが増加しております。

今年も自然災害が危惧されますが、美味しいトマトが出来るためにも、神頼みであります。温暖で災害の少ない年になってもらいたいと心より願っております。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



総務課長
張山歌子

新年あけましておめでとうござ

います。

昨年、私はいろいろな研修会等に参加させて頂きました。そこで「感謝」という言葉を何度か耳にし、感銘いたしました。「仕事をさせてもらえることに感謝」、「ゴルフができることに感謝」です。これからは「感謝の気持ち」を忘れないようにしたいと思います。そして、初詣も「ありがとうございます」と神様に感謝を伝えたいと思います。



業務課長
小田切勇治

昨年の目標としていた「整理」「整顿」「掃除」は、まだまだ道半ば。私より同僚の机の方が綺麗になったので、多少の成果はあったようです（笑）。

今年で節目の40才になります。美味しいりんごのように、ずっしりと蜜が詰まった素敵な大人になれるよう精進します。



業務課長代理
西田一実

昨年6月に業務課長代理を拝命いたしました。それに見合う仕事が出来ていないかと猛省しております。

「和」を大切にし、リーダーシッ

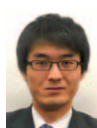
プを發揮できるよう奮励努力します。



総務部主査
五十嵐敦

学生の頃に比べて、最近ちよつと出不精気味なので、今年重い腰をあげて、行きたいなと思つていた所、今まで行つたことがない所に足を伸ばしたいなと思つております。「百聞は一見に如かず」を心掛けて、自分の見聞をもっと広げて、仕事に、そして私生活につなげられたらいいなと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします！



業務部主査
佐々木秀家

本年で入社10年となります。本年は「倍返し」、「今でしょ!」という意気込みで頑張つてまいります。事務局にいらした際は精一杯の「お・も・て・な・し」で皆様を「じえじえ」と言わせられるよう頑張ります。



業務部主査
成田賀子

昨年より業務部に配属され、売店・トランクボックス・青友会と担当も増え、対パソコンから対人間になり、怒涛の一年が過ぎました。

今年はきちんと周りを見なが

ら、組合員の皆様のため、馬車馬のように働きます。



郵便局窓口担当
小又栄子

今年は、二度目の成人式を迎える年なので、一段上の大人を目指し、輝きます！
わが子達のように「いるだけで、パワーを与えられる存在」になりたいと思います。

一瞬を大切に「ありがとう」の気持ち忘れず、全力疾走しますので、よろしくお願ひいたします。



総務部主査
田中静香

組合事務局の一員となり、8度目の正月を迎えることができました。これもひとえに組合員皆様方のご厚情のおかげと存じます。10代の8年は長く感じたものですが、入社以降は、気がついたら8年が経っていました。

後厄に負けずに頑張ります。



総務部主事
鎌田綾野

昨年12月24日に入籍し、鎌田(かまだ)となった元村上です。漢字の画数が多くなり若干面倒くさくはなりましたが、苗字が変わったことに幸せを感じております。

まだ乗り越える壁は多々ありますが、これから2人で力をあわせて頑張ります。



問屋町ストアパート
成田あすか

昨年も皆様には売店をご利用して頂き、誠にありがとうございます。

今年も一年、皆様の目を引く商品を1店でも多く揃えられるように頑張つてまいりますので、売店共々よろしくお願ひいたします。



問屋町ストアパート
外崎由佳

新年あけましておめでとうござ

います。今年も「一期一会」の気持ちを忘れずに頑張ります。

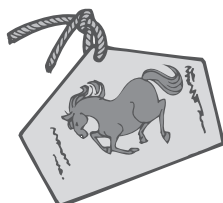
ご来店お待ちしております。



青森問屋町配送(株)業務部長
佐藤博善

昨年は、組合員の皆様をはじめ多くの方々に大変お世話になり、誠にありがとうございました。

私達、運送業界は「燃料の高騰・ドライバー不足」など、経営環境が益々悪化しております。しかし、お客様のご理解とご協力を賜り、今年もがんばつて行きたいと思つております。



平成26年(2014年)は 街並・景観整備を推進して10年 緑と花に囲まれ、働きやすい、賑わいのある “ビジネスタウン”を目指して

着実な組合運営と積極的な 情報発信・広報活動

平成25年度は、全国的に経済状況が向上してきたこともあり、組合員数が近年最多となる145社と順調な組合運営を行うことができた。

平成26年度も、高速道路インターチェンジに隣接する最適なインフラ環境と青森市最大の物流拠点であることを活かした組合運営に努める。

そのためには、既存共同事業等の着実な運営はもちろん、青森市内企業に加え、広く一般市民にも親しまれる卸団地となるよう「問屋町」ブランドを浸透させていくため、組合の広報機能を拡充させ、組合及び組合員の発信力を強化していきたい。その一環として、26年度には実験的にインターネットを活用した音声及び動画の配信にも取り組みたい。

また、26年4月には消費税が増税され8%となることから、組合員がスムーズな対応ができるよう、各種情報提供に努めていく。

着実に歩み続けて10年 街並・景観整備計画

問屋町の街並・景観整備は、平成15年9月に第二問屋町北口に青森中央インターチェンジが開通したことをきっかけに、新たな業務地域として「人・モノ・情報」が集まる賑わいのある「まちづくり」を目指して、平成17年度からスタートした。

10年に渡る長期的な取り組みで、ゆくりではあるが着実に問屋町は変貌を遂げ、他団地からも視察を受けるなど、全国の卸団地の中でも先進的な取り組みとして注目されていく。整備においては、ロゴマーク



ロゴマークデザインのモニュメント

3年目を迎える「問屋町ビジネススクール」は、組合員をはじめ青森市内外企業や個人からも広く受講申込みがあり、延べ受講者数は千名を超えた。25年度からは新たな営業研修もスタートするなど、今後も多様なニーズに応えるべく研修カリキュラムの充実を図っていく。

ビジネススクールや労務対策 事業で従業員交流の活性化



12月にオープンした「SOKKA」

また、人が集まるまちを目指し飲食店の誘致も進めてきたが、平成25年12月に第二問屋町にスイーツショップがオープンし、市民が立ち寄れる施設も充実してきた。

平成26年度は、25年度に行った問屋町地区の街路樹植ハープ植栽の実験事業の状況を確認しながら、今後の計画を一年としていく。

また、労務対策事業でも「ハロウィンパーティー」や「フ

組合と青森交通安全協会問屋町支部が取り組んでいる「問屋町内交通安全死亡事故ゼロ運動」は、平成26年4月1日で6千日を達成する。昭和61年からスタートし、これまで3度の失敗を経験。4度目の挑戦は平成9年10月に始まり、約16年間、死亡事故ゼロが続いている。

問屋町内交通安全死亡事故ゼロ 6千日達成を目指して



初開催したハロウィンパーティー

「合同厄払い」などの新しい事業がスタートしている。開催事業への参加者は年々増加しており、問屋町で働く従業員の方々が様々な場面で知り合い、交流できる場所を提供するべく、企画のブラッシュアップを行っていく。



パソコンリサイクル回収

現在、事業化へ向けた半年間の実験事業を行っており、実験結果を精査し、平成26年度からの本格稼働を目指す。

平成26年度の新規事業として予定しているのが「パソコンリサイクル回収」事業。通常、パソコンの処分には3千円程度の費用が発生し、その手続きの煩雑さとあわせ企業の負担となっている。当事業では、不要になったパソコンを企業から1台100円〜200円で買い取る。買い取られたパソコンは委託業者と提携した障がい者施設で分解され、レアメタル等は売却される。企業の経費負担の軽減と障がい者の雇用創出につながり、双方にとってメリットが多い。

更なる資源リサイクルへ向け パソコンリサイクル回収事業



街頭指導で安全運転呼びかけ